平成 29 年度地域づくり海外調査研究事業調査報告書

森の国ドイツで見る「木育」の可能性

調査地 ： ドイツ カッセル

Maria Montessori Centrum Kassel

Kinderhaus Elfenwiese

調査日 ： 平成 29 年 10 月 13 日

平成 30 年 3 月

一般財団法人 地域活性化センター

振興部 地域づくり情報課 編集室 中村 咲輝

目次

１．研究目的（P1~3）

(1)はじめに

(2)六ヶ所村の子育て支援策

(3)モンテッソーリ教育について

(4)「木育」～ウッドスタートからはじまる子育て支援～

(5)調査地の選定

２．実施調査（P3~8）

(1)ドイツ　カッセル市

(2) Kinderhaus Elfenwiese

(3)森の幼稚園

(4)モンテッソーリ幼稚園室内

３．まとめ（P8）

４．参考（P9）

1.研究目的

(1)はじめに

我が国の総人口は、2015 年の国勢調査で 1 億 2,709 万人であった。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（2017 年推計）」の出生中位推計によれば、総人口は、2040 年の 1 億 1,092 万人を経て、2053 年には 1 億人を割って 9,924 万人となり、2065 年には 8,808 万人になるとされている。また、年少（0～14 歳）人口（外国人を含む）については、2015 年国勢調査で 1,595 万人であったが、出生中位推計によれば、2021 年に 1,400 万人台へと減少し、2056 年には 1,000 万人を割り、2065 年には 898 万人程度になるものとされている。このような人口減少と少子化の進行を受け、国では次代の社会を担う子どもの成長を社会全体で応援するため、子育てにかかる経済的負担の軽減や安心して子育てができる環境整備のため、総合的な子育て支援策を推進しており、全国の自治体でも様々な子育て支援策に取り組んでいる。

(2)六ヶ所村の子育て支援策

筆者の派遣元である青森県六ヶ所村でも、全国の自治体同様に人口減少が進んでいる中、様々な子育て支援策に力を入れている。出生した子どもの 1 歳到達まで保護者へ月 5,000 円を給付する「未来に続く健やか子育て支援」、第 3 子以上出生時には保護者に 10 万円を給付する「子宝祝金」、給付対象審査にて保護者の所得制限額を他市町村よりも大幅に緩和している「乳幼児等医療費給付事業」など、他にも様々な支援を行っている。今後は、それぞれの給付額を引き上げるなど、子育て支援策の更なる強化・展開を考えている。このような祝金や医療費の給付は、保護者への経済的子育て支援として大変重要である。しかし、これらの支援策は保護者への金銭的な支援であり、乳幼児期の子どもたち一人ひとりの内面的な成長を直接支援するものではない。内面的な成長への支援の重要性について、世界的に有名なモンテッソーリ教育を参考に考えることとする。

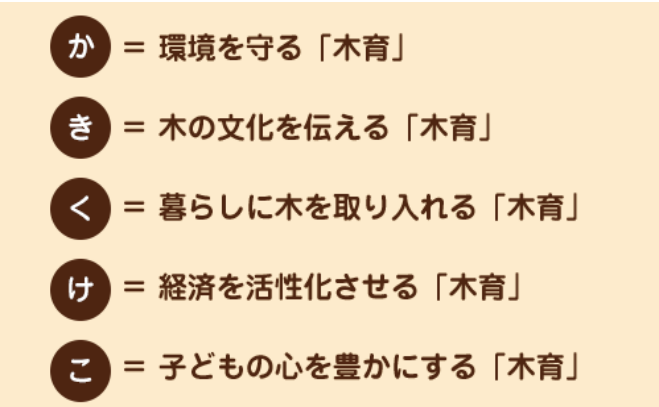
(3)モンテッソーリ教育について

モンテッソーリ教育は１９０７年に生まれた。モンテッソーリ教育の創始者であるマリア・モンテッソーリは、イタリア初の女性医師であった。世界中にある多くの教育法は、様々な子育ての経験の積み重ねから生まれてきていることが多い。対して、マリア・モンテッソーリは医師であるため、モンテッソーリ教育は医学や生物学、心理学といった幅広い学問の土台の上に成り立っていることが特徴である。モンテッソーリ教育では、子どもが何かに強く興味を持ち、集中して同じことを繰り返す限定した時期を「敏感期」としている。「敏感期」には、運動や言語、秩序、感覚などの力が育まれるとされている。また、大人になる 0 歳から 24 歳までの 24 年間を 6 年ごとの 4 つの期間に分けて、「発達の四段階」としている。この四段階のうち、第一

段階である 0～6 歳までの乳幼児期には、先に説明した「敏感期」が集中していることから、人生に必要な 80%の能力を獲得すると言われている。そのためモンテッソーリ教育では、人の一生の中で 0 ～ 6 歳までの乳幼児期が、大人になってからでは決して取り戻せない重要な時間と位置付けている。このモンテッソーリ教育の「敏感期」の考えから、如何に乳幼児期における内面的支援や、大人の接し方が重要であるか理解できる。 また、モンテッソーリ教育で参考にしたいことがもう一つある。それは、モンテッソーリ教育の象徴でもある「教具」についてである。「教具」は子どもの成長ごとに分けられ、目的を一つに絞って作られている点が一般的な「おもちゃ」とは違う。一番注目すべき特徴は、教具に自然のもの（主に木材）をできるだけ使うように推奨していることである。これは、子どもの繊細な感覚を育むときに、手触りや匂いなどといった五感で感じて学ぶためのものは、自然のものを使用した「教具」が良いという考えからである。モンテッソーリ教育を参考にすると、子どもにとって重要な 0 ～ 6 歳の乳幼児期に、保護者への金銭的支援だけではなく、子どもたちの内面的成長に直接関わる支援が必要であると考えられる。また、自然のものを使用した「教具」のようなものを使用することは、子どもたちの豊かな五感を育むために有効であろう。このような考えから、現在、全国に広がってきた「木育」による子育て支援に私は注目した。

(4)「木育」～ウッドスタートからはじまる子育て支援～

「木育」という言葉は、2004 年に北海道で生まれた。その後、2006 年に「森林・林業基本計画」の中で閣議決定された言葉でもある。2010 年より、この「木育」推進のための事業を林野庁から受託している団体が、地域活性化センターと連携協定を結んでいる NPO 法人芸術と遊び創造協会である。NPO 法人芸術と遊び創造協会では、「木育」を「木が好きな人を育てる活動」と定めている。 そして、その活動が目指す目的を「かきくけこ」でまとめている。右の図①が「かきくけこ」の内容となる。最後の「こ」では、子どもの心を豊かにする「木育」とある。現在、子育てに木を生かす取組が全国で始まっている。これは、木のおもちゃは子どもの五感に働きかけ、感性豊かな心の発達を促すことから、木の持つ可能性を生かして子どもの心を育んでいくという取組である。この具体的な事業が「ウッドスタート事業」である。赤ちゃんが生まれると地元産の木材で作られた木のおもちゃをプレゼントする事業や、子育て環境に地域材をふんだんに取り入れ、木質化する事業などがある。「ウッドスタート事業」は自治体や企業、幼保育園など様々な場所で展開されている。特に自治体では、地元産の木のおもちゃを誕生祝品とし、子育て支援×林業活性化として「ウッドスタート事業」を推進しているところが多くなってきている。「木育」は、子育て支援だけでなく、林業や地域全体の活性化につながる可能性を大い



図①：木育の目的「かきくけこ」
NPO 法人芸術と遊び創造協会ＨＰより抜粋

に秘めているのである。

本調査では、モンテッソーリ教育を行っている幼稚園を訪問し、木製の教具を使用している子どもの様子や変化について、幼稚園教諭にヒアリングすることとした。また、「木育」に関係する「森の幼稚園」という、森の中で保育を行う取組についても、自然のもの（特に木）と関わっている中での子どもたちの様子についてヒアリングすることとした。本調査にて「木育」の可能性を現場で確認し、実際に六ヶ所村で「木育」による子育て支援に取り組む際の参考にしたい。

写真①：山口県長門市の誕生祝品「くじらの親子」

(5)調査地の選定

調査地については、モンテッソーリ教育や森の幼稚園が盛んに実施されているドイツとした。また、事前調査にてドイツ・ヘッセン州のカッセル市に、モンテッソーリ教育と森の幼稚園に取り組んでいる幼稚園があることを知ったため、この幼稚園、「Maria Montessori Centrum Kassel の Kinderhaus Elfenwiese」を訪問することとした。

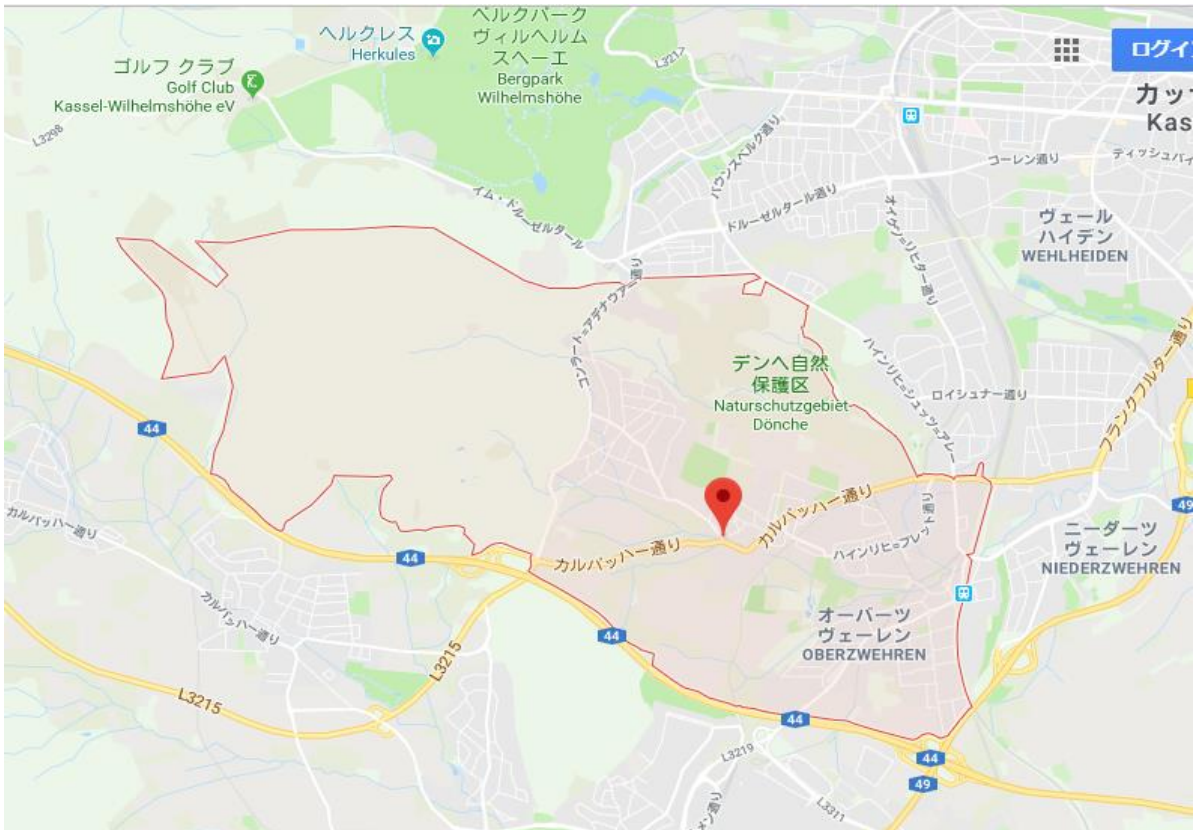
2.実施調査

(1) ドイツ　カッセル市

ドイツのヘッセン州北部に位置するカッセル市は、メルヘン街道沿いではブレーメンに次ぐ規模の都市であり、人口は約 20 万人。周囲は世界遺産に登録されたヴィルヘルムスヘーエ公園をはじめとした森に囲まれており、街なかにも緑が多くのどかな雰囲気が漂っている。また、ヴィルヘルムスヘーエ公園では 50 mの噴水が噴き上がる水の芸術アトラクションが定期的に行われていることもあり、森や水、芸術の都として有名である。

(2)Kinderhaus Elfenwiese

Maria Montessori Centrum Kassel は、カッセル市内で子どもの家と呼ばれる幼稚園を 5 園、小学校を 1 校、シアタースクールを 1 つ運営している団体であり、子どもの家と呼ばれる幼稚園の 1 つ「Kinderhaus Elfenwiese（以下「モンテッソーリ幼稚園」という。）」を訪問した。場所は、図②の地図の赤いピンの位置となる。ヴィルヘルムスヘーエ公園やデンヘ自然保護区に比較的近く、多くの自然に



図②：Kinderhaus Elfenwiese の位置
Google マップより抜粋

囲まれた場所にある。対象年齢は 3 歳～6 歳で、月曜日から金曜日（祭日を除く）の午前 7 時 30 分～午後 3 時 30 分まで開園されている。教諭はフルタイム職員が 2 人、パートタイム職員が 1 人の合計 3 人、通園している子どもの数は 24 人である。ドイツの他の幼稚園は午前だけ開園され、通例、25 人の子どもに対して 1 人の教諭が担当になる。他の幼稚園とは、開園時間や子どもの数に対する教諭数が違うことが特徴である。本調査では、男性教諭のフーベル氏に協力していただいた。なお、子どものプライバシー保護のため、調査中、子どもたちは他の教諭と園外へ散歩に行っていた。そのため、子どもたちとの接触はなかった。

写真②：モンテッソーリ幼稚園にて
フーベル氏（右から 2 番目）との記念撮影

(3) 森の幼稚園

最初にフーベル氏に案内された場所が、敷地内にある森であった。モンテッソーリ幼稚園では、５日間のうち３日間は屋外で森の幼稚園を行い、残りの２日間は、屋内で活動するとのことであった。11 月～2 月の雪が降る冬季や、雨が降って寒い日でも森の幼稚園は行う。その際には、写真③の小屋の中で活動する。最も大切なことは、どのような天気でも屋外へ出て、子どもたちの育つ場をつくることであると、フーベル氏は言う。森の中には写真④のようなテントもあり、火を起こすスペースがあるため、週に一度、ここで子どもたちと料理をするとのことである。火を起こすために必要な薪は子どもたちが集めている。時にはその薪を使って、子どもたちの気の向くままに自由な創作をしているとのことで、写真⑤の木琴もその一例である。この木琴は教諭の指示で作られたわけではなく、子どもたちが木の長さや太さ、木の種類、或いは木の切り方まで考えた上で創作したものだそうだ。実際に木琴を叩いてみると、心地よい木の音で見事な音階ができていた。子どもたちは、この木琴を創作する過程の中で、「木の長さが違うから音が違う」、「他の種類の木を使えばまた別の音がでる」といったようなことを学べる。森の幼稚園では、自然の木を活用した創作活動の経験を通じて子どもたち自身の創造力や思考力、手先の能力を育むことができる。また、日本の幼稚園には見られない、ユニークだと感じられたことがあった。それは、マテオという犬が放し飼いされており、幼稚園の建物の中と森を行き来していることである。森の幼稚園で子どもたちが屋外に行くときには共に森へ、屋内での活動であれば共に中へ入る。モンテッソーリ教育では犬も自然の一部と考えられており、森にあるものだけではなく、このような本物の生き物がいる環境も大事にしているのである。フーベル氏によると、木などが多くある屋外の環境では、幼稚園の室内にいるとき

写真③：森にある悪天候時用の小屋

写真④：森の幼稚園活動用のテント

写真⑤：子どもたちの創作した木琴

写真⑥：幼稚園の建物と森を行き来する犬のマテオ

よりも子どもたちがイライラしていないように見えるそうだ。室内の限定された空間で決められたおもちゃで遊ぶよりも、森で自然のものを自由に使用し遊ぶ方が、子どもたちが自由に発想し楽しさを感じるのではないかとのことである。森では、教諭が子どもたちを信じ、常時監視せず、声だけを聞いて様子を伺っているそうだ。これは、子どもたちが喜んで自由に遊ぶためである。ただし、年長組しか行けない少し注意を要する場所もあり、そこだけは気をつけているそうだ。

写真⑦：子どもたちが普段から遊ぶ森

モンテッソーリ幼稚園では、子どもたちに創作用のナイフを使用できるようにしている。木を削る・切る方法を学んだ子どもに「免許証」を渡し、教諭の前でのみナイフを使用させる。子ども 3 人に 1 人の教諭が付き添う。ナイフは使用後、すぐに教諭が回収する。ナイフの使い方に慣れてくると、最初は木を削ぐくらいしかできなかったものが、徐々に彫刻等ができるようになってくるそうだ。ナイフを使用できることが、子どもたちの創造力をさらに高めることに繋がっている。

写真⑧：子どもたちが使用するナイフ

森で遊んでいると、子どもたちから多くの質問をされるとフーベル氏は言う。そのために、本や図鑑を何冊も箱に入れて外に置いているそうだ。教諭が子どもたちからの質問に答えるのではなく、子どもたちが自ら本を見て学ぶことができるようにするためである。虫や動物、動物の足跡など、子ども向けの内容ではなく大人向けのものを置いているそうだ。なぜなら、子どもたちの質問や疑問のレベルが高いため、子ども向けのものでは対応できないからである。自然の中で遊ぶことで、たくさんの疑問が生まれ多様な学びが得られる。そこに森の幼稚園の本質を感じることができた。

写真⑨：幼稚園のグループルーム

(4) モンテッソーリ幼稚園室内

モンテッソーリ幼稚園の室内は、木質を意識して整備されていた。床やテーブル、イスなどは全て木材で作られており、非常に温かみのある空間であった。

モンテッソーリ教育の特徴である教具も見せていただいた。ほとんどの教具は木材でできており、水を入

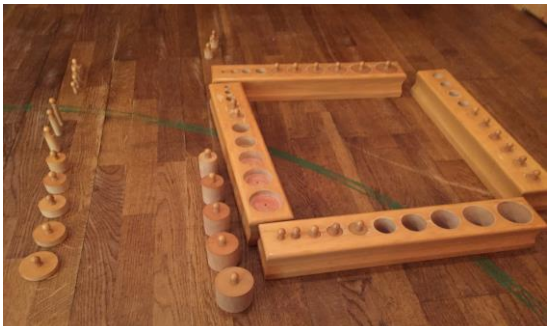
れて使用する教具だけがプラスチックであった。教諭が教具の使い方を子どもに 1 対 1 で教え、その後は子どもたちが自分で選んで遊ぶそうだ。木材だけではなく、砂も自然のものとして使用されていた。これは、指でなぞり、指の感覚から形や文字を学ぶためのものである。教具には数字を学ぶためのものもあり、子どもたちが自ら手に取り、握ったり触ることで得られる感覚によって数字の大きさを学ぶ。

モンテッソーリ幼稚園の子どもたちは、国籍が様々で、言葉、宗教、文化的背景が異なる。人の時間の中で最も大切な幼少期だからこそ、一人ひとりを尊重し、うまく人格形成に繋がるよう、配慮しながら接しているとのことである。

最後に、フーベル氏からモンテッソーリ幼稚園の木質化や、幼稚園での子どもたちの様子について話を聞いた。モンテッソーリ教育の創始者であるマリア・モンテッソーリは、100 年前に教具等に木材を使うよう推奨していた。これは、自然のものの中で一番入手しやすく、温かみのある材質であり、子どもたちが五感で感じられるものであるからである。そのため、ここのモンテッソーリ幼稚園でも昔から部屋の木質化に取り組むとともに、木材でできた教具を今も変わらず使用しているとのことであった。他のモンテッソーリ教育を行っている園では、時代と共に部屋が木質ではなくなり、プラスチック製の教具を使用している場合もあるそうだ。森の幼稚園で木に慣れ親しんでいる子どもが多いということ、また、勤めている教諭も他の材質よりも温かみや安らぎを感じ、リラックスできるという理由から、ここでは木質化や木材にこだわっているそうだ。テーブルやイス、教具については、近所に木工職人が住んでいるため、壊れた場合の手入れは直ぐにしてくれるとのこと。このような職人も、木を使用した園づくりにとっては大きな存在である。室内の木質化や木製の教具、森の幼稚園を通して、子どもたちの様子は入園当初と全く違うものになるそうだ。入

写真⑩：木製教具 1

写真⑪：木製教具 2



写真⑫：木製教具 3

写真⑬：木製教具 4

園前は、家でコンピューターゲームやスマートフォンゲームで遊んでおり、自発性がなく受け身の子どもたちが多いとのことである。入園後は、自ら木でおもちゃを作って遊んだり、木に耳を当て電話のように音を聞いたりする。遊びを通して積極的になってくるそうだ。また、家にいる時間にイライラしている子どもたちも、モンテッソーリ幼稚園では落ち着きがでて良い意味でおとなしくなっていると、保護者から聞くそうだ。森と木による効果を、子どもたちを見守る教諭だけではなく、保護者も感じているようである。

３.まとめ

冒頭でも記載したとおり、モンテッソーリ教育では、人の一生の中で０～６歳までの乳幼児期が、大人になってからは決して取り戻せない重要な時間と位置付けられている。現地調査でも、この重要な時間を意識した教諭の行動や、森の幼稚園、木製教具を使用した遊びが印象的であった。フーベル氏の話からも分かるように、このような環境や遊びは子どもたちに良い効果や変化を与え、それは教諭や保護者も感じている。また、モンテッソーリ教育の自然のものを推奨するという考えは、「木育」の子どもの心を豊かにするという考えにも通じる。木の触り心地、香り、優しい色合い、温もりなど、特に幼少期の敏感な子どもたちが五感を育んでいくのには適した材であると言える。「木育」という言葉は日本にしかないが、木の力で子どもたちを豊かに育んでいくという本質的な考え方は、ドイツで行われているモンテッソーリ教育と同じであろう。今回の調査を通じて、幼少期に自然のものである木のおもちゃを「木育」の一環としてプレゼントすることや、子どもたちが木のおもちゃで存分に遊べる場所をつくっていくことは、子どもたちの内面的成長に直接関わる支援になると改めて感じた。このような素晴らしい取組を行う全国の自治体や企業、幼保育園がさらに増えてくることを願う。また、六ヶ所村でも「木育」による子育て支援に取り組めるよう努めていきたいと思う。

【謝辞】
今回の調査にご協力していただきました、Maria Montessori Centrum Kassel・Kinderhaus Elfenwiese 園長のシュワルツ様及び教諭のフーベル様、六ヶ所村国際教育研修センターの国際交流員 ドミニク・アウベルト様及び国際教育研修センターの皆様、本当にありがとうございました。
また、このような機会を与えてくださった（一財）地域活性化センター及び派遣元の六ヶ所村にもお礼申し上げます。

4.参考

【参考サイト】

・http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp
「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

・http://sainou.or.jp/montessori/about-montessori/
「モンテッソーリ教育について」日本モンテッソーリ教育綜合研究所

・http://mokuikulabo.info/
「木育ラボ」認定 NPO 法人 芸術と遊び創造協会

【参考文献】

・「モンテッソーリ教育で子どもの本当の力を引き出す！」 藤崎達宏
・「トラベルデイズ ドイツ」 昭文社
・「ドイツの自然・森の幼稚園 就学前における正規の幼稚園の代替物」 ペーター・ヘフナー